

紫波町町有財産活用事業（旧水分小学校）実施方針（素案）に関する意見公募結果

1 意見公募期間

令和 4 年 7 月 26 日（火）～令和 4 年 8 月 21 日（日）まで

2 意見提出者数

1 名

・提出方法の内訳

提出方法	人数
電子メール	1 名

3 意見総数

2 件

・意見の内訳

意見の内容	件数
実施方針（酒の学校基本コンセプト）に関する意見	1 件
活用方法「酒の学校」に関する意見	1 件

4 周知方法

町広報「紫波ネット」、町ホームページ

5 閲覧場所

町ホームページ、各地区公民館、市民活動支援センター「ゆいっとサロン」、紫波町図書館、資産経営課

6 提出された意見の概要と町の考え方

番号	意 見	意見に対する町の考え方
1	旧水分小学校を「酒の学校」として活用していくことについては基本的には賛成です。しかしながら、「酒の学校基本コンセプト」を読むと、この施設は紫波町外から酒のことを学びに来た人向けの施設という意味合いが大きく、紫波町民、とりわけ水分地区の住民にとって直接的なメリットがあまり感じられないような気がします。 長期的な視点で見れば、紫波町外から酒の学校に学びに来た人が、いずれ紫波町に定住して酒産業に従事すれば（酒産業でなくても紫波町に定住してくれば）、紫波町の人口減少対策になりメリットはあります。しかしながら、施設としての酒の学校の存在だけでなく、酒の学校の卒業生が紫波町の特に西部や東部の農村地域に定住すると優遇されるような制度を町が作っていないと、西部・東部の農村地域への効果的な人口減少対策にはならないと思います。	「酒の学校基本コンセプト」では、酒のまち紫波推進拠点「(仮称) 酒の学校」を通じて実現する未来像を、「酒の関係人口の創出を図ることで、既存醸造事業者、新規醸造事業者、消費者、関係団体、地域などの様々な分野に好循環をもたらし、それぞれが相関関係を持ちながら酒のまちとしての成長、発展を促す経済システムを構築していきます。」、「町内外に広く波及効果をもたらしながら、町の中で酒関連産業を起点にあらゆる世代がイキイキと活躍する状態になり、世界中から町そのものが「SAKE TOWN (酒のまち)」として評価される未来へと導いていきます。」としています。 「酒の学校」は酒のことを学ぶだけの場所ではなく、訪れた人も地域の人も「酒関連事業」を通して関係し、地域経済の循環や地域自治の発展に寄与する拠点となることを目指して活用して参ります。 そして、西部・東部のその他の空き校舎の活用にあたっては、酒の学校の様に、地域の特色を活かしながら人口減少対策にも繋がるような活用を図って参ります。

2	酒の学校と地域住民との直接的なつながり（酒の学校が出来たことによる住民にとってのメリット）が希薄だと、民間事業者だけで酒の学校を長く維持することは困難です。地域住民が「水分小学校が酒の学校に生まれ変わって良かった」と思えるような施設であり、民間事業者と地域住民の協力で長く愛され続ける施設になってほしいと思います。6月に旧水分小学校で開催された意見交換会で住民から出された意見を参考に「酒の学校に求めること」を示します。	整備運営の主体については民間事業者を想定しており、酒の学校の具体的な事業内容は民間事業者の提案により協議の上、決定することとなります。 頂いたご意見は、事業者公募の際の様々な条件を検討する際の参考とさせていただきます。
	・「子供の居場所」としての役割 水分地区は小学校の閉校だけでなく児童館が閉館することにより、子供が日常的に集まり活動できる居場所が無くなります。酒の学校のなかに子供が遊べる空間や小中高校生が学習に使える図書館兼学習室のような空間が出来て欲しいです。 また、酒の学校には酒造りを学びたい社会人だけでなく「岩大ビール部」のように学生も長期休暇を利用して学びに来ることが想定されます。子供たちがそのような学生から勉強を教わったり進路相談に乗ってもらったりする機会があれば、子供たちが成長した時に自然に「紫波で酒産業に携わりたい」と思うようになるはずです。酒の学校で学ぶ学生に「酒の学校で学んだことを子供にも分かるように説明する機会」や、「酒造りに必要な科学的知識を使った子供向け科学教室」（※化学ではなく科学）を必ず実施するように課題を出しても面白いかもしれません。	

	・酒の資料館・ライブラリーの役割（観光拠点） 酒造りの現場を見学できるだけでなく、南部杜氏発祥の地であることを活かした南部杜氏に関する資料やその他、酒造りに関する様々な資料が閲覧できるライブラリーを作りたいです。 ・酒の学校の学園祭（オープンスクール）の開催 住民や観光客の利用を前提とした常に開放された施設だとは承知していますが、学園祭（オープンスクール）と称して施設を大々的に開放し、酒の学校で造った酒などの製品に加え水分地区の農産物等も販売する水分地区の産業まつりのようなイベントを開催すれば、水分地区が酒の学校とともに盛り上がると思います。	
--	--	--